

東大和市立第六小学校（2年目）

【校長】 飯塚 庫健
【生徒数】 333 名
【学級数】 12 学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・学校での取組を家庭や地域と共有できる土台はできた。今後は、生活全体を通した体力向上・健康づくりへと発展させていきたい。
- ・体力差や経験差がより大きくなる中で、一人一人が達成感を得られる支援や評価の在り方を引き続き検討していきたい。
- ・ICT を活用することが目的になってしまったところがあり、固執してしまった時があった。目的ではなく手段であることを改めていきたい。

目標

- ・失敗をしてもめげずにチャレンジして、心も体もたくましい児童
- ・運動の楽しさを味わい、生き生きと運動に親しむ児童（95%以上）

【成果】

- 「体を動かすことは好きになった。」
令和6年度 90% ⇒ 令和7年度 96% ↑
- ・ゲーム性を取り入れた授業やUD化を意識した規則やルールの設定により、**運動が苦手な児童も安心して参加する姿が見られるようになった。**
- ・場、用具、ルール等を工夫することで、**一人一人の実態に応じて運動の楽しさを味わえる授業ができるようになった。**

- 「給食や食べ物に対して興味をもった。」
令和6年度 75% ⇒ 令和7年度 81% ↑
- 【意見】「給食をおいしく感じるようになった。」
「給食を作っているところを見たい。」

【実態・課題】

- ・「運動・スポーツをすることが好き」の割合が90.7%と肯定的回答が高い。その一方で、「授業以外でももっと運動やスポーツをしたいと思うか」の肯定的回答は84.5%と約6ポイント減少した。

⇒体育の授業の改善とともに、授業以外での運動・スポーツへの興味・関心を高める。

⇒家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣付け、心と体の健康・食育をさらに推進する。

【取組】

- 授業研究部会での取組（体育の授業改善）
・体育授業のユニバーサルデザインを意識して、ルールや場、教材を工夫し、どの子ども運動の特性を味わいながら、「できた!」という達成感を感じられるようにする。
- 楽しい運動機会の創出
・年間12回、中休みに「六スポタイム」を企画し、様々な運動遊びにクラスごとにチャレンジする場を用意し、体を動かすことの楽しさやよさを味わう機会を増やす。
- 食育・健康部会の取組
・家庭と連携し、児童の生活習慣の見直しを図る。
・授業づくりにおいて、養護教諭と栄養教諭との連携を図り、計画・実践する。

【取組（詳細）】（写真の枚数は自由）

○授業研究部会での取組～5年体育「からだづくり運動」の実践より～

本校の児童の課題である「瞬発力」の向上を目指して、マーカーの置き方、マーカーの距離、時間内に何回タッチできるかといった2人で競走するなどのゲームを取り入れることを意識した。ただ訓練的に行うのではなく、楽しみながら運動し、自然と体を動かしていく中で体力を向上させるようにしている。



○楽しい運動機会の創出

年間12回、中休みの20分間を活用して12個の運動機会の設けている。各クラスがローテーションして、1年間で走・跳・投の運動を楽しみながらゲーム性を取り入れながら行えるようにしている。左の写真は、「スーパーロープ」という大縄チャレンジと「スティック&GO」という2本の棒にボールを載せて運ぶ運動で、回数やタイムを競い合っている様子である。



【六小スポーツタイム 12ステージ】

- | | |
|------------|-------------|
| ① 六小パルクール | ② リバーシ |
| ③ タグ取ング | ④ スーパーロープ |
| ⑤ 落とし玉 | ⑥ スティック&GO |
| ⑦ ワンダーニンジャ | ⑧ 跳すごい |
| ⑨ かけぬけてトライ | ⑩ フライングディすご |
| ⑪ ボールデリバリー | ⑫ オニ3こちら |

○食育・健康部会～6年保健体育「病気の予防①」の実践より～

保健の授業をただ担任が行うのではなく、養護教諭や栄養教諭と連携して、健康診断や専門的な食の観点から、自分事として学べる授業内容を計画し、実践した。

その他に、本校の主任栄養教諭と連携して、「給食のカレーができるまで」等、各学年5分程度、毎月おすすめの食育動画を児童に視聴する機会を与えることによって、食への興味や大切さを感じられるようにしている。

